

一般国道42号

き ほう
紀宝バイパス

(道路事業)

説明資料

平成31年1月28日

中部地方整備局
紀勢国道事務所

目 次

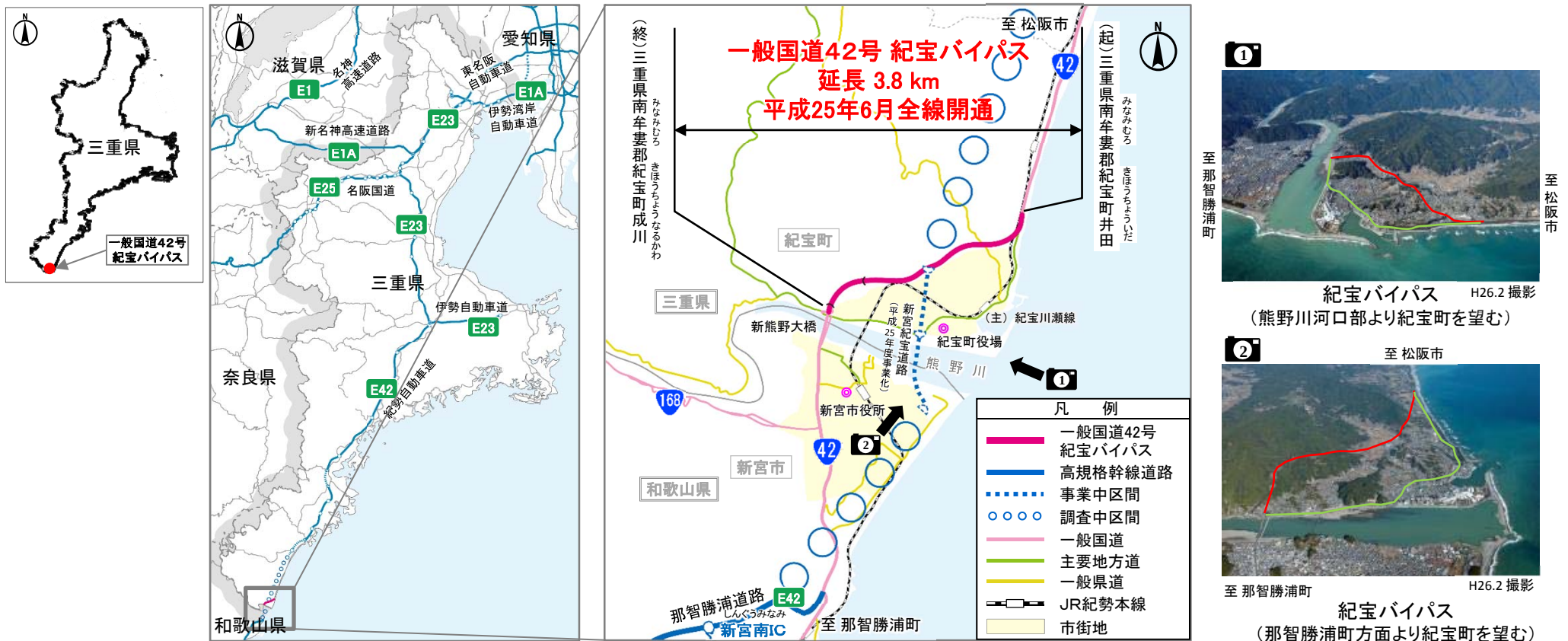
1. 事業概要	
(1) 事業目的	P 1
(2) 計画概要	P 2
2. 評価の視点	
(1) 事業効果の発現状況	
①交通渋滞の緩和	P 3
②交通事故の削減	P 4
③地域間連携状況	P 5
3. 社会経済情勢の変化	
①幹線ネットワークの拡充	P 6
4. 対応方針（案）	P 7

1. 事業概要

(1) 事業目的

- 一般国道42号紀宝バイパスは、三重県南牟婁郡紀宝町井田を起点とし、同郡紀宝町成川に至る延長3.8kmのバイパスであり、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、紀宝町と新宮市の地域連携強化を目的に計画された事業です。
- 平成25年6月に延長3.8kmが全線開通しました。

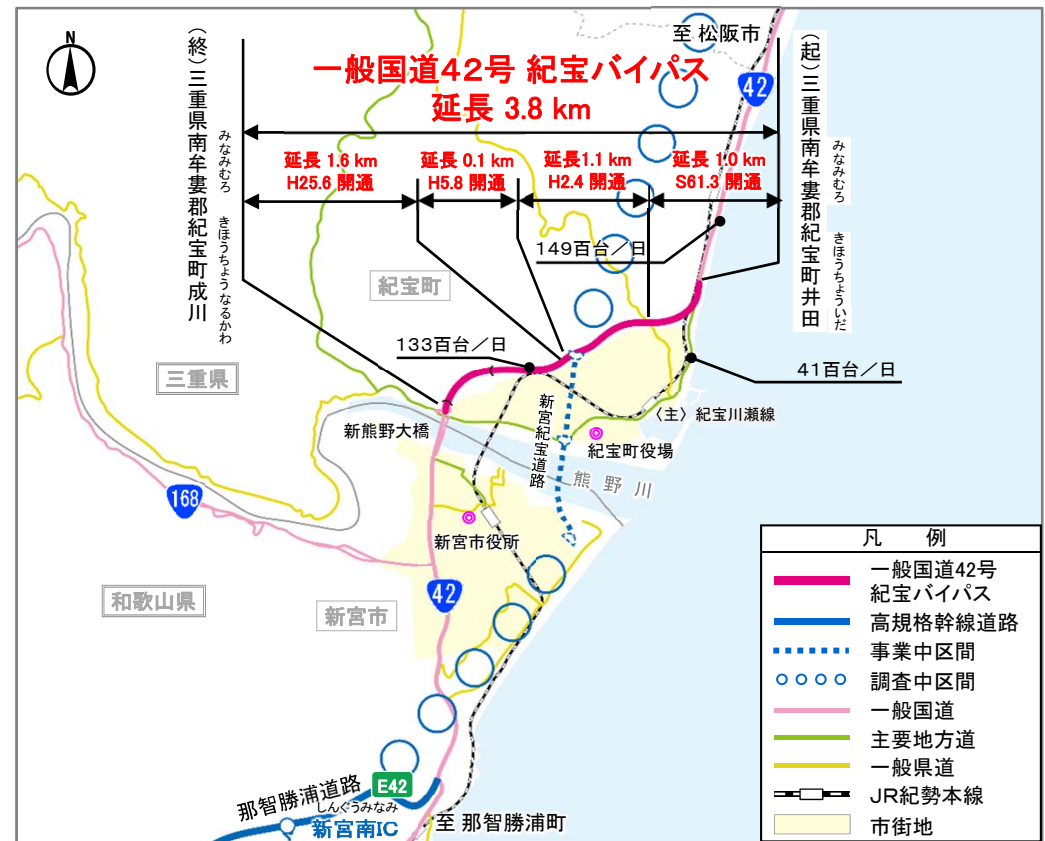
紀 宝 バ イ パ ス の 全 体 位 置 図



1. 事業概要

(2) 計画概要

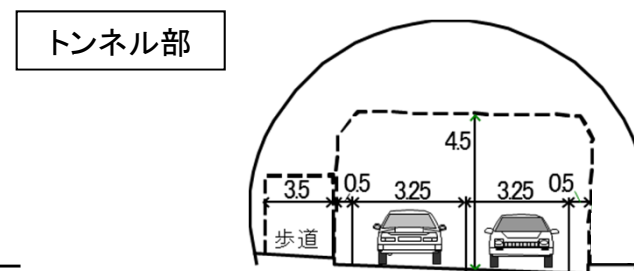
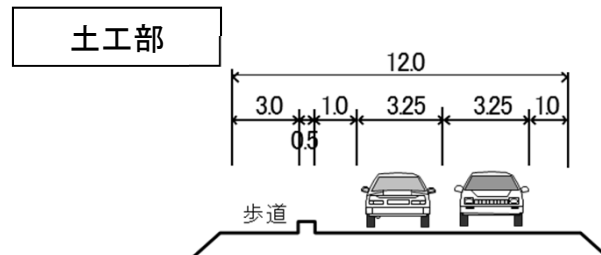
事業名	一般国道42号 紀宝バイパス
延長	3.8 km
道路規格	第3種第2級
設計速度	60 km/h
車線数	2車線
事業化	昭和47年度
用地着手年度	昭和49年度
工事着手年度	昭和55年度
工事完成年度	平成25年度
全体事業費	175億円
計画交通量	10,900台/日
B/C	1.1



※平成27年度全国道路・街路交通情勢調査結果

標準断面図

単位:m



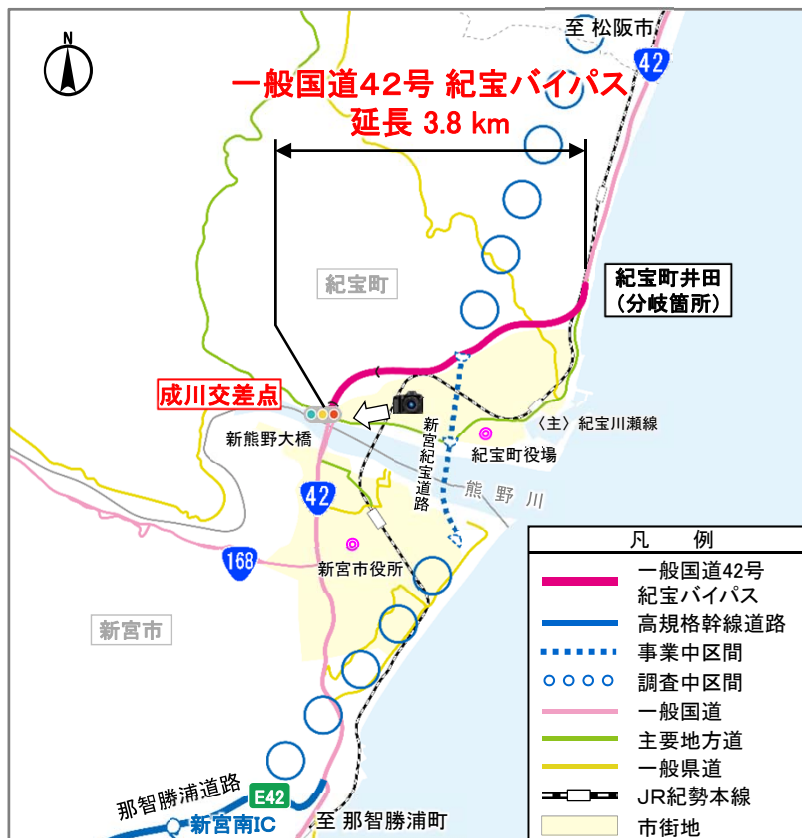
2. 評価の視点

(1) 事業効果の発現状況

① 交通渋滞の緩和

- 紀宝町市街地を通過する幹線道路は(主)紀宝川瀬線(旧国道42号)のみで交通が集中、特に、成川交差点では恒常的に渋滞が発生していたため、平成24年度に三重県内の主要渋滞箇所を選定されました。
- 紀宝バイパスの開通により、紀宝町を通過する交通が紀宝バイパスに転換、成川交差点の交通渋滞が解消、所要時間が短縮したため、平成27年度に成川交差点は三重県内の主要渋滞箇所から削除されました。

○紀宝バイパス位置図



○成川交差点の渋滞状況の変化

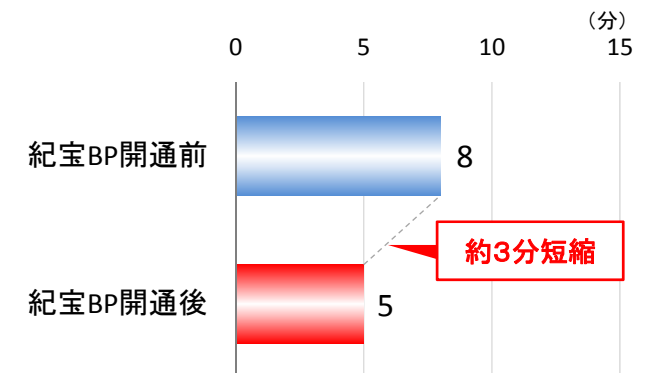
【開通前】



【開通後】



○紀宝町井田(分岐)～成川交差点の所要時間



紀宝BP開通前：(主)紀宝川瀬線を利用した場合の所要時間

紀宝BP開通後：紀宝BPを利用した場合の所要時間

※所要時間は、紀宝BP開通前は平成22年度、開通後は平成27年度の
全国道路・街路交通情勢調査(混雑時旅行速度)をもとに作成

紀宝バイパスが開通したことで、**通勤時間が短縮**、余裕を持って朝出勤できるようになりました。



新宮市職員の声

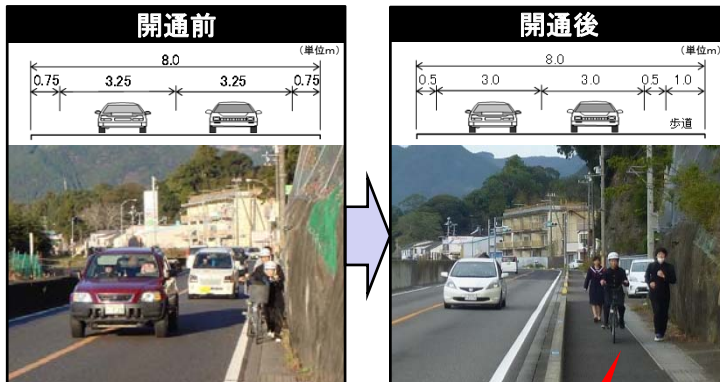
2. 評価の視点

(1) 事業効果の発現状況

② 交通事故の削減

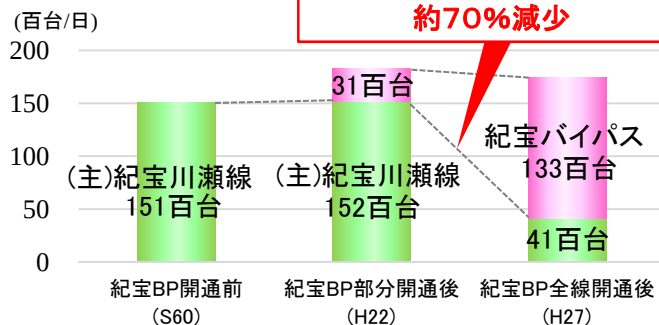
- 紀宝バイパスの開通によって、紀宝町を通過する交通が(主)紀宝川瀬線(旧国道42号)から紀宝バイパスへ転換したことにより、当該地域の交通事故が約6割減少しました。
- 紀宝バイパスと並行する(主)紀宝川瀬線(旧国道42号)では、歩道がなく危険な状況でしたが、交通量が減少したため、車道の幅員を縮小して歩道を設置、歩行者にも安全な道路となっています。

○(主)紀宝川瀬線(旧国道42号)の歩道



(主)紀宝川瀬線(旧国道42号)の交通量が紀宝バイパスに転換、車線幅員を縮小して歩道を設置。

○交通量の転換状況



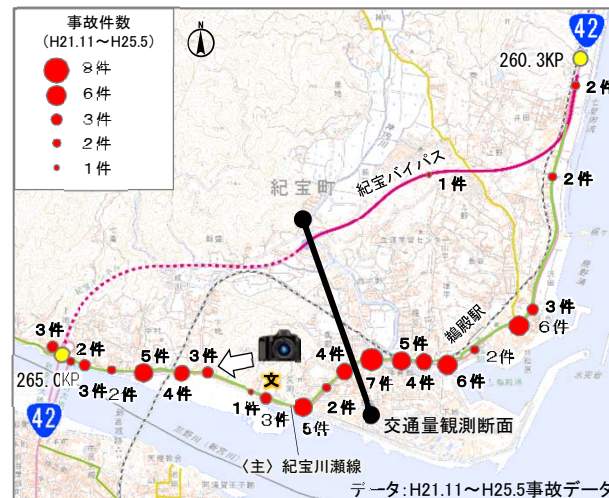
(主)紀宝川瀬線の交通量は約70%減少

○全線開通前後の事故発生状況

【開通前】事故件数 75件
紀宝バイパス 1件
紀宝バイパス並行区間 74件

【開通後】事故件数 32件
紀宝バイパス 22件
紀宝バイパス並行区間 10件

約6割減少



※イタルダ事故別データ(H21-H28)より算出

紀宝バイパスが開通したことで、並行する旧国道42号の区間の交通量が大幅に減少したため、生徒の通学時の安全性が高まったと感じます。



【矢淵中学校教頭先生の声】

2. 評価の視点

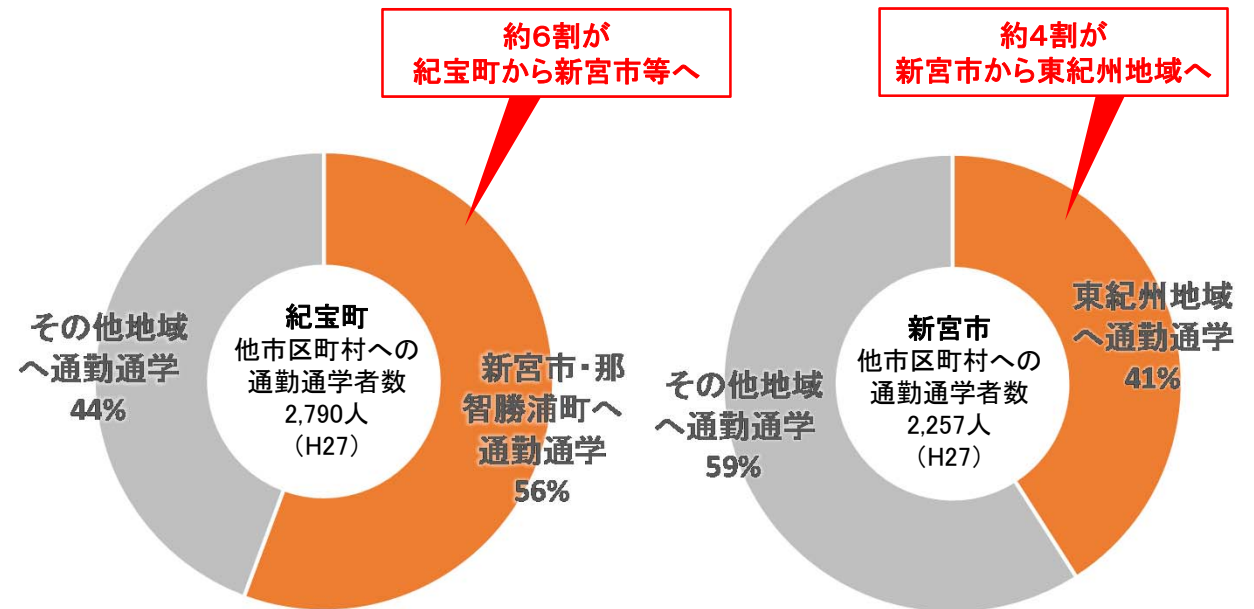
(1) 事業効果の発現状況

③ 地域間連携状況

- 東紀州地域では、生活圏中心都市である新宮市に通勤等、その都市機能を大きく依存しています。
- 両地域を結ぶ道路である紀宝バイパスが地域間連携の役割を担っています。



○ 紀宝町・新宮市の県境を越えた通勤通学者の状況



※H27国勢調査

紀宝バイパスが開通したことで、通勤や業務等での移動時間が短縮、仕事の効率も向上しました。



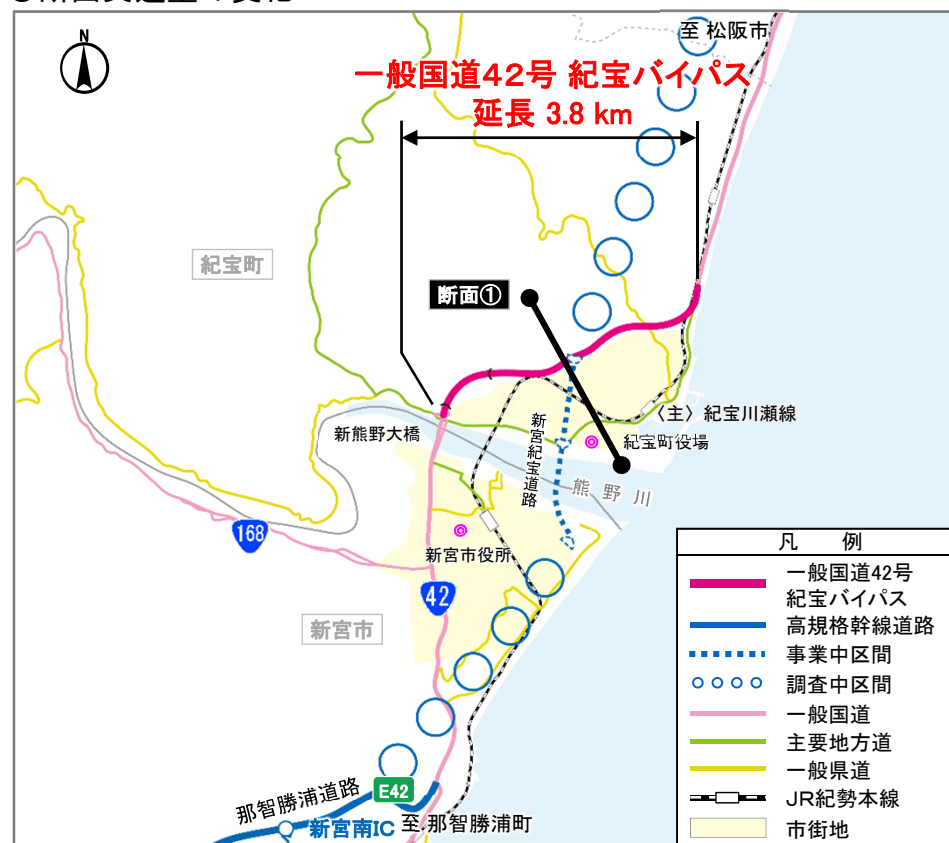
紀宝町の方

3. 社会経済情勢の変化

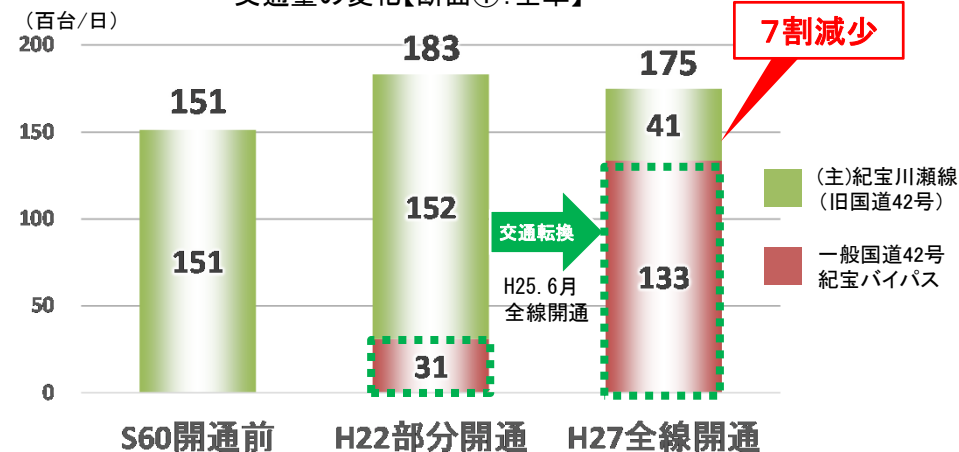
① 幹線ネットワークの拡充

- 紀宝バイパスが開通し、幹線ネットワークの拡充が図られています。
- 紀宝バイパスが開通したことで、(主)紀宝川瀬線(旧国道42号)の交通量は7割減少し、バイパスへの転換が図られています。
- 特に、大型車の(主)紀宝川瀬線(旧国道42号)の交通量は、部分開通時から8割減少しています。

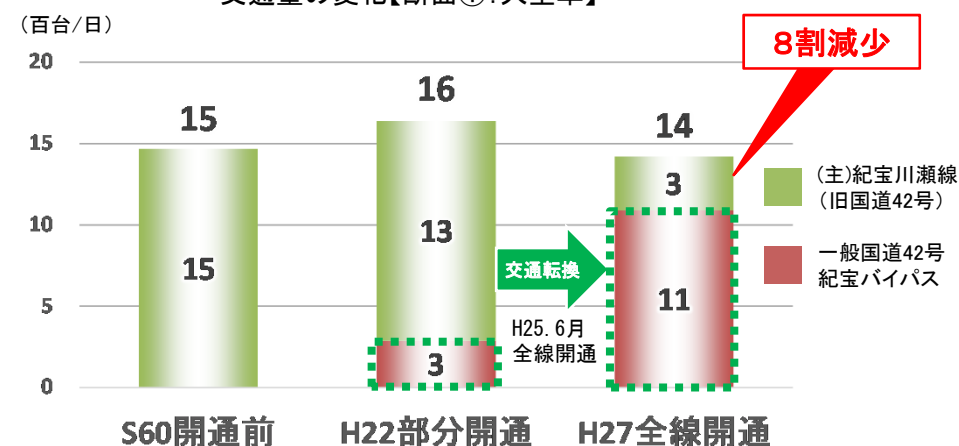
○断面交通量の変化



交通量の変化【断面①：全車】



交通量の変化【断面①：大型車】



※全国道路・街路交通情勢調査結果

4. 対応方針(案)

(1) 今後の事業評価の必要性

- 一般国道42号紀宝バイパスは事業が完了しており、整備目的どおりの効果が発現していることから、今後の事後評価の必要はないと考えます。

(2) 改善措置の必要性

- 一般国道42号紀宝バイパスは、整備目的を達成していると判断できるため、改善措置の必要はないと考えます。

(3) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 同種事業の計画・調査にあたっては、広域的な効果が発現するという観点で道路整備による多面的な効果の把握に努める必要があると考えます。
また、事業評価手法の見直しの必要はないと考えます。